

『タマネギべと病仕上げの防除』

2月下旬頃から、べと病越冬罹病株の発生が目立つようになりました。今年度の冬は低温傾向で推移し、去年より遅い発生となりましたが、これから暖かくなると一気に発生する可能性がありますので先手を打って防除を行いましょう。

べと病越冬罹病株



《越冬罹病株の特徴》

- ・葉が湾曲し、黄色っぽくなってツヤが無くなり灰色のカビを生じます。
- ・ほ場で健全株と比べると草丈が低く見えます。

越冬罹病株の抜き取り

越冬罹病株は放置しておくとう子がほ場全体に蔓延し2次感染を繰り返します。見つけ次第抜き取りほ場外に持ち出し、焼却もしくは土中深く埋めて処分します。

薬剤散布

- ・3月からは防除間隔を7~10日とし、3月中に3回は防除を行ってください。
- ・べと病菌は、降雨で濡れると素早く発芽し葉内に侵入するので、降雨前日から直前(降雨前に散布薬剤が乾く程度)の予防散布が重要です。また、効果を安定させるために必ず展着剤を混用してください。
- ・FRACの異なる薬剤をローテーション散布してください。

※FRACが同じ薬剤を続けて散布すると耐性菌が出現し徐々に効きにくくなります。

《例 3/上 リドミルゴールドMZ 3/中 ベトファイター顆粒水和剤 3/下 ランマンフロアブル》

タマネギのべと病登録農薬の例

令和3年3月現在

薬剤名	希釈倍率(倍)	使用回数制限(回)	有効成分	予防治療効果(目安)	FRAC※	有効成分の総使用回数制限(回)
リドミルゴールドMZ	1000	3	マンゼブ	予	M3	5
			メタラキシルM	予+治	4	3
ベトファイター顆粒水和剤	2000	3	シモキサニル	予+治	27	3
			ベンチアバリカルブイソプロピル		40	3
レーバスフロアブル	2000	2	マンジプロロמיד	予+治	40	2
ランマンフロアブル	2000	4	シアゾファミド	予+治	21	4
プロポーズ顆粒水和剤	1000	3	ベンチアバリカルブイソプロピル	予+治	40	3
			TPN	予	M5	6
ジマンダイセン水和剤	400~600	5	マンゼブ	予	M3	5